

ことりっぶ mook

2018 Winter

¥630(税別)



ほっこり泊まる冬の旅へ

ことりっぶ Magazine

Vol

こころとカラダに
やさしい宿

草津 × デトックス

箱根 × 養生

熱海 × オーベルジュ

篠山 × 古民家宿

祖谷 × 農泊体験 etc.

[おとなの読書時間]

万城目学さん × 湊かなえさん
特別対談

[co-Trip Invitation]

俳優 相葉裕樹さん

木のおもちゃ作家・多胡歩未さん

森の息吹を感じる おもちゃづくり

小さな山々に囲まれ、田園風景が広がる京都府木津川市に、
質感や色、木目を生かしながら、木のおもちゃを
製造販売するアトリエ「arumitoy (アルミトイ)」があります。
ドイツでの修業経験を持つ、作家の多胡歩未さんを訪ねました。



木のおもちゃ作家・多胡歩未さん

1978年生まれ。美術大学卒業後、おもちゃの企画開発・デザインの会社に就職。その後単身ドイツへと渡り、木のおもちゃ職人に弟子入り。2年間の修業後、2004年京都にアトリエをオープン。木のおもちゃや雑貨づくりはもちろん、森と繋がり未来に森を残す活動なども行なう。

多胡さんの作品はどれも、木が持つ個性を生かしたチャームिंगなものばかり



木のおもちゃをつくりたい 一途な思いと行動力

作家への道を志し、技術と知識を求める場を探して、
全国の木工作家や工房を訪ね歩いた多胡さん。
思うような結果が出ない中、ドイツへ渡ろうと決意します。



おもちゃだけではなく、大人も楽しめるアブササリやインテリアなどの雑貨も充実

自然体の魅力をまとう
木のおもちゃが生まれる場所

豊かな自然が広がる、京都府南部に位置する木津川市加茂町。ここに古民家をリノベーションした木のおもちゃ作家、多胡歩未さんのアトリエ兼店舗「アルミトイ」があります。印象的なその屋号の由来は、多胡さんのあだ名「歩未」(あるみ)からきているそうです。

中に入ると木のおもちゃをはじめ、ピアスやネックレスといったアクセサリー類、インテリア小物などが並んでいます。どれも木が持つ特徴を生かした、使うことに味が増し経年変化が楽しめるものばかり。そんな木の魅力を感じられる、ナチュラルなアイテムがそろっています。

木のおもちゃづくりを求めて
日本を離れドイツへ

「元は遊園地の乗り物をつくるのが夢でした」という多胡さん。しかし、自分の手に負えるもの、自分の手でつくり出せるものがないと思いつき、デザインを専攻していた美術大学在学中に、「子ども」をテーマとしたさまざまな木工作品を制作。なかでも木のおもちゃづくりは、卒業制作にするほど力を入れていました。現在もその時の作品から生まれた「かせきこころ」などをアルミトイの「顔」となるアイテムとして販売しています。

そして、木のおもちゃづくりを仕事にするべく、次のステップへ。金属や化学材料での制作は考えられず、自分の手で加工ができる「木」一択でした。大学卒業を目前に、より深く木工の技術を学び、木のおもちゃ作家への道をたどるべく、国内の木工作家や工房を調べて修業の場を探しました。

しかし、プラスチック製品が全盛だった当時、「古くさい」「今さらなぜ？」と言われる「マイナー」だった木のおもちゃ。数少ない情報を頼りに作家や工房を訪ねるも、趣味や副業として制作している現場が多く、そこには入り込む難いように感じました。

それでも諦めるという選択肢がなかった多胡さんは、おもちゃ売り場に並ぶ木のおもちゃを見てひらめきます。「商品の大半がドイツ

やヨーロッパ製のものだったんです。ドイツに行けば何かある。行かないと何もない」と思いました。渡独資金を貯めるため、木のおもちゃの企画開発・デザインの会社に就職。2年間と期限を決め、仕事とは別にオリジナル作品を5つ作るという自分へのノルマを課しました。無事に資金が貯まり、課題も達成した多胡さん。仕事を辞め、オリジナル作品を写真におさめたA3サイズのポर्टフォリオを持ってドイツへと旅立ちます。迷うことなく自分の道を切り開く、多胡さんの行動力と信念の強さ。それが今に繋がっているようです。



オイルを塗って仕上げたナチュラルなショルダーバッグ
19440円〜。革の持ち手といい、使うほどに味が出る



店内に飾られた植物の花壇にはオリジナルのウッドスタンドを使用



屋号の書かれた表札も、多胡さんの店らしく木製のもの



「木材フェナ」と自稱するほど、木への愛が深い多胡さん